



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 47

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 47. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1956, 47: 21-25

ISSUE DATE:

1956-08-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186823>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No.47

1956.7月(8月3日)

暑中御見舞申上げます。

録 事

中旬以来雨は少しも降らず、連日かんかん照りで、構内の草も枯れ、淡水は乏しさを加えてきた。水槽の水温もグングン上昇して飼育中の魚も斃死するものが多くなり、備付けの消防ポンプやアクアラングを使用してサンゴ類等は採集してくるものの、魚の補充となると到底追いつかない。

辞令用紙ができてあがったので、今回 振興会委員や水族館取員の辞令を同時にさかのぼって正式に発行した。

3月の委員会決議に基づき、瀬戸部代表者を新たに委員に加えることになり、このほど同部長 浦政吉氏が委員に推薦され、7月7日正式に就任された。

昭和23年瀬戸部より寄贈をうけた隣接土地の一部が何年間も未解決のままに残されていたところ、今回の浦氏の尽力により解決をみたことは喜ばしい。浦氏を委員として迎えたことは今後瀬戸部との緊密な親善関係を保ってゆく上に大いに力となるであろう。

かねてより田辺の鉄工所に依頼しておいた水族館・博物館・植物園の入口を表示する正門アーチが漸くでき上って、19日建立、白と青と紺の3色の調和のとれた塗装を施し、入口を飾ることとなった。

21日より昨年通り納涼バスの運転が始められたので8月一杯の約束の下に夜間30分間水族館を開くこととなった。今までの成績はますますというところだろう。

24日例年の通り白浜を訪れた京都市清水校の交換学習児童約200名が無料参観した。

24日 実験所の森田書記に水族館の絵葉書に利用する目的で八上重夫氏に依頼して水族館その他の建物を撮影してもらった。

業 務 概 況

◎ 7月の入場者数

区 分	水族館 券売数		明光バス 券売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大人	4712	34133	6759	59553	11471	93686
小人	437	2658	300	1149	737	3807
団体	6854	49306	—	—	6854	49306
合計	12003	86097	7059	60702	19062	146799
無料入場者	清水校交換学習児童					約 200名

団体：一般 36組 学生 34組 計 70組

◎ 7月の事業収入

観覧券売上金	332,353	2,677,871
予金積立金利息	—	49,082
雑 収 入	480	10,040
6月よりの繰越	1,257,821	—
計	1,590,654	

◎ 7月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	61,977	292,458	
全 議 費	—	62,039	
備 品 費	—	100	
消 耗 費	4,705	37,443	
事 業 費	42,886	148,212	
維持 費	1,580	25,230	
其他諸経費	2,090	97,593	
積 立 金	57,591	455,105	
合 計	170,829	1,118,180	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	—	30,000	
奨学金	5,000	20,000	
備品費	—	10,400	
合 計	5,000	60,400	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	5,200	23,260	
備品費	8,500	8,500	デジタライズスクリーン購入
消耗費	—	112	
合 計	13,700	31,872	

臨時費

支出なし

支出合計

水族館経費	170,829	1,118,180
実験所経費	5,000	60,400
博物館経費	13,700	31,872
臨時費	—	228,600
計	189,529	1,439,052

7月末現在高 1,401,125

支出累計 ~~189,529~~

◎ 前年度との比較

	1955	1956	増 減
入場者数	15423	19062	+ 3639
売上金	230,220	332,353	+ 102,133
支出金	683,684	189,529	- 494,155

水族館記事

- ◎ 5月消防用にとて購入したポンプは水族館の動物採集用に(大いに威力を発揮することとなった。 9日と20日の2回塔島のタイドプールをポンプを使用して水をかい出し、ギンユゴイや名前不明な美しいヨウジウオ等の1種やヒメセミエビ等を採集した。
- ◎ 又水族館南岸で布施、奥野、原田氏等の脱走者連中が数回アケラングをつけて水中に潜り、多くのサンゴ等を採集した。その中にすむ熱帯魚、イソギンチャク、イバラカンザシ等は夏の水槽を美しく飾る点景である。
- ◎ これに反し水槽内の温度は日まに上昇し、魚類の斃死するものが目立ってきた。その主なるものは次の通り。

<u>イタナウオ</u>	1匹	7月2日入槽	18日死亡。
<u>コロダイ</u>	3匹	7月18日入槽	22日2匹、31日1匹死亡。
<u>ヒゲダイ</u>	1匹	7月18日入槽	22日死亡。
<u>ホシカレイ</u>	1匹	7月23日入槽	26日死亡。
<u>モンガラカワハギ</u> の1種(種名不明の珍らしいもの)			
	1匹	7月6日入槽	28日死亡。
- ◎ 24日 アカウミガメが1匹実験所南岸で採れ、29日寺本から運ばれてきたアオウミガメ1匹が入槽した。
- ◎ オトヒメエビ 5匹が24日 No. 20の水槽に入った。
- ◎ 今月は イセエビ、ニシキエビ、セミエビ等水槽中で脱皮するのを多く観察した。
- ◎ 月末に水族館玄関正面の水槽の排水口を大きくし、水の流通をよくした。
- ◎ 共同便所に蛍光灯をとりつけ、裏側控室に引込線を設けた。

博物館記事

- ◎ 幻灯映写用にデイトライトスクリーン1基を谷田デイトライト商会より購入した。

資料

◎ 7月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(19)			
気温(℃)	$\frac{23.2 \sim 26.1}{24}$	$\frac{26.5 \sim 28.9}{27.3}$	$\frac{27.3 \sim 29.8}{28.3}$
水温(℃)	$\frac{23.7 \sim 24.6}{24}$	$\frac{25.6 \sim 27.8}{26.8}$	$\frac{26.8 \sim 28.6}{27.4}$
比重	$\frac{20.9 \sim 23.6}{22.1}$	$\frac{22.0 \sim 23.0}{22.5}$	$\frac{21.9 \sim 22.6}{22.2}$

但し { 気温は南水槽室
水温はNo. 25水槽
比重 } で9時測定

来訪録

7月22～27日 京都大学水産学科大学院学生 赤崎正人氏が
タイ型魚類採集のため来館。

7月23～24日 八上重夫氏 水族館その他の建物及び海洋
動物生態撮影のため来館。

昭和31年8月3日発行 (No. 47)

編集兼
発行人

内海 富士夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会

和歌山縣 白浜町

瀬戸臨海実験所内

(Tel. 白浜温泉 515)